

【専大スポーツ】
https://www.senshu-u.ac.jp/sports/

専大スポーツ

No. 463

専大スポーツ
編集部
公式WEB

掲載記事を含む全文はコチラ↑

X @sensuponow
Instagram sensuponow



優勝を喜ぶフェンシング部の男子部員たち



優勝の瞬間、喜びを爆発させた

男子エペ
23年ぶり

関東リーグ制覇

次の目標は全日本学生王座

関東学生フェンシング果した。
リーグ戦は5月8日、世田谷区・駒沢公園屋内球技場(文2・岩国工高)で、熊谷志孔(商2・北陸高)、下村祐翔(人間科学2・岩国工高)の2人が、2年次生3人の新体制で挑んだ初戦の法大戦を、下村は「とても緊張したが、全力でプレーした結果、勝利することができた」と語った。その後、泉が「チームの作戦通りに戦えた」と話すように、チームワークの良さや個人の強みを生かした戦い方で、順調に勝利を重ね、4勝1敗でリーグを制した。

熊谷は、優勝時の心境を「素直にうれしく思うと同時に、プレッシャーから解放されてほっとしたような気持ちだった」と胸をなでおろした。

今大会の結果、6月に行われる全日本学生王座決定戦の出場権を獲得した。泉田は「対戦相手の分析などの準備をしっかり」と意気込んだ。

(峯岸茉莉亜・法2)

2位

ベストナイン
長島、中野、谷頭
新人賞 梅澤

優勝決定戦で惜敗

率首位となり、勝負の行方は優勝決定戦に持ち越した。優勝決定戦はタイブレークまでもつれ込む接戦となったが、あと一歩及ばず、2位で春季リーグ戦を終えた。主将の中野拳志郎(文4・小浜高)は「開幕節で敗れた相手だったので挑戦者の気持ちで試合に臨んだ。厳しい戦いになるのは分かっていたが、勝ちきれなかったのが悔しい」と歯を食いしばった。

ベストナインには長島(経営4・専大北上高)が投手部門、谷頭太斗(経済3・日本航空石川高)が二塁手部門で初受賞、中野は捕手部門で2度目の選出となった。新人賞には梅澤翔大(経済1・専大松戸高)が輝いた。

今春は新たな顔ぶれが活躍した。投手では新エースの長島、中継ぎの藤田和輝(経済4・筑陽学



新人賞に輝いた梅澤

撮影＝門前咲良(文3)



先頭打者として打線をけん引した谷頭
撮影＝門前



果敢に攻める櫻井主将(左)
撮影＝君嶋悠樹(経済2)

全日本学生へ 確かな手応え

東京学生柔道優勝大会は5月25日、千代田区・日本武道館で開かれた。専大は2回戦から出場。初戦で亜大に6-0で快勝するも、続く早大戦は代表戦までもつれる接戦の末、惜しくも敗

戦。ベスト8進出はならなかったが、6月の全日本学生優勝大会への出場権を獲得した。

主将の櫻井亮弥(文4・松商学園高)は「悔しさもあるが、互角に戦えたことは自信になった」と語り、確かな手応えを得た大会となった。

(富田心暖・ネット情報)



男子 32回目のリーグV

殊勲賞に溜



勝利への強い気持ちを
見せた溜 撮影＝大石

春季関東学生卓球リーグ戦は5月15、26日、埼玉県・所沢市民体育館ほかで、男子は6勝1敗で昨春以来となる32回目のリーグ制覇を達成した。

カギとなったのは第6戦の中大戦。3-3とどこまでも譲らぬ展開だった。主将の星優真(文4・東山高)は「優勝できてうれしい。一人一人が自分の役割を果たし、最後まで諦めずに戦い抜くことができた結果だ」と喜びを続けたが、5勝2敗で3位となった。

首藤成美(文2・希望が丘高)・遊佐美月(経

女子 3位 首藤・遊佐組が最優秀ペア賞



息の合ったプレーを見せた首藤(左)と遊佐
写真提供・関東学生卓球連盟

首藤が「受賞できると思っていなかったのですが、とてもうれしい。初めてのコンビだったが、自分たちのプレーができてよかった」と話すと、遊佐は「左利き同士で組むのは初めてで不安もあったが、課題を話し合いながら練習に取り組み、良い形で試合に臨むことができた。首藤さんに感謝しかない」と受賞を心から喜んだ。

(大石)

びを語った。また、頼れるキャプテンは「この結果に満足することなく、全日本大学総合選手権や秋季リーグ戦でも優勝を目指す。今後の練習も頑張り、練習の時から1人一人が貢献できるように」と次を見据えた。

(大石真碧・文2)

賞を受賞した。溜は「星さんが普段から、リーグ戦の優勝を口にしておいて、優勝したい」という気持ちがあった。自分たちの弱みは詰めが甘さだと考え、練習の時から1人一人が貢献できるように」と次を見据えた。

(大石真碧・文2)